

啓蒙の世紀フランスにおける外国人遺産没収権 —パリ・サン＝ジェルマン＝デ＝プレ地区における実施の事例から—

パリ・エスト大学 博士課程研究員 見瀬 悠

はじめに

- ・近世フランスにおける外国人遺産没収権 *droit d'aubaine*
 - 定義：王国生まれの子孫を残さずに死亡した外国人の財産を没収する国王の権限（国王大権）
 - 機能：
 - 外国人と臣民の区別（J. バケ『フランス王領論』）、国富の持出の防止（重商主義）
 - 啓蒙の世紀：「野蛮」・「非人間的」、商業的發展の阻害、互惠の免除の増加（1760 年代以降）
- ・問題関心：外国人遺産没収権はどのように実施され、どのような機能を果たしたのか？
- ・先行研究
 - 従来の研究：外国人の法的無能力の一つ（法制史研究）、帰化を促す前提（帰化研究）
 - 近年の議論
 - 君主政国家形成と外国人の法的地位 [Sahlins 2004] →『アナル』誌上で論争 [Cerutti 2007] [Sahlins 2008] → 18 世紀トリノでは法的な外国人の概念は個人を規定する効力を持たない [Cerutti 2012]
 - 問題点：外国人遺産没収権の実施を具体的に検証していない、フランスを対象とする研究の欠如
- ・本報告：外国人遺産没収権の実施を局地的な行政の次元において検討
 - 対象：パリのサン＝ジェルマン＝デ＝プレ地区における死後財産の差押えの手続き
 - 史料：48 件の死後財産封印調書（仏国立公文書館シャトレ文書所蔵）

1. 外国人遺産没収権の適用のプロセス

- ・財産差押えのプロセス（【図 1】参照）
- ・手続きの目的
 - 故人の身元確認は不可欠ではない（e.g. 1741 年「フランドル人」Vandame）
 - 財産の持出については調査の上、回収（e.g. 1744 年イタリア人 Elena）
 - 故人の地位の確定ではなく財産の安全確保が重要
- ・王領法廷主席検事の関心
 - 必ずしも故人の正確な身元を把握しておらず（e.g. 1743 年イングランド人 Laurent）
 - 外国での出生の証明義務なし、相続権の主張・証明がない限り「推定」に基づいて適用できる
 - 法律上の資格や権利よりも、手続きに参加する当事者のうち誰がより正当性をもつか

2. 外国人遺産没収権の適用対象

(1) 法規範・免除規定との関係 【表 1】

- ・48 件中 26 件は免除無か不明、うち 3 件は相続権の申立てあり
 - 免除特権がなくてもフランス生まれの子供がいれば相続権承認（e.g. 1732 年ピエモンテ貴族 Rex）
- ・48 件中 22 件は免除有に関わらず王領法廷主席検事が介入、17 件は没収決定
 - 相続権をもち得る親類が相続の現場にいない（e.g. 1741 年フランドル人 Notterman）
 - 13 件で相続権の申立てが無い。外国人遺産没収権か相続人不在財産没収権 *droit de déshérence* か？
 - 判例では外国人遺産没収権、実践では両者の混同
 - 相続人不在の外国人と臣民は財産の扱いのうえで明確に区別されていない

(2) 故人の社会的地位との関連性 【表 2】

- ・貴族の相続が王領法廷主席検事の干渉を受けやすい
 - 外国人監視の緊密さ

- 富裕さゆえに標的にされたのか？ しかし、貧しい相続（e.g. 1728年イングランド人寡婦 Dillon）や政治権力に近い貴族の相続（e.g. 1706年デンマーク人 Dehann）も対象
- 「平等」な干渉。ただし外国権力の介入による例外もあり（e.g. 1728年 Kingston 公爵夫人）

おわりに

- ・外国人遺産没収権は財産権への潜在的脅威だが、法的地位・資格だけでなく相続人不在による適用
- 外国人の相続を困難にするが、外国人を臣民から区別する機能を十分に果たしていない

主要参考文献目録

1. 一次史料

- ・手稿文書：国立公文書館所蔵シャトレ裁判所文書、国立図書館所蔵刊行王令・裁判所判決など
- ・刊行史料

Bacquet, Jean, *Les œuvres de Me. Jean Bacquet*, 2 vol., Lyon, chez les Frères Duplain, 1744.

Bosquet, *Dictionnaire raisonné des domaines et droits domaniaux*, 2 vol., Paris, Dutillet, 1775.

Gaschon, Jean-Baptiste, *Code diplomatique des aubains*, Paris, Foucault, 1818.

Lefevre de Laplanche, *Mémoires sur les matières domaniales ou Traité du Domaine*, 3 vol., Paris, 1764-1765.

Sallé, Jacques-Antoine, *Traité des fonctions, droits et privilèges des commissaires au Châtelet de Paris*, Paris, P. Alex. Le Prieur, 1759.

2. 研究文献

Boizet, Jacques, *Les lettres de naturalité sous l'Ancien régime*, Paris, Maurice Lavergne, 1943.

Cerutti, Simona, « À qui appartiennent les biens qui n'appartiennent à personne? Citoyenneté et droit d'aubaine à l'époque moderne », *Annales. Histoire, Sciences Sociales*, 62^e année, n° 2, 2007, p. 355-383.

Cerutti, Simona, *Étrangers. Étude d'une condition d'incertitude dans une société d'Ancien Régime*, Montrouge, Bayard, 2012.

D'Alteroche, Bernard, *De l'étranger à la seigneurie à l'étranger au royaume XI^e-XV^e siècle*, Paris, L.G.D.J, 2002.

Danjou, Colette, *La Condition civile de l'étranger dans les trois derniers siècles de la monarchie*, Paris, Sirey, 1939.

Delaume, Geneviève, *Le Bureau des finances de la Généralité de Paris*, Paris, Cujas, 1966.

Dubost, Jean-François, *Les étrangers en France XVI^e siècle - 1789. Guide des recherches aux Archives nationales*, Paris, Archives nationales, 1993.

Dubost Jean-François et Peter Sahlins, *Et si on faisait payer les étrangers? Louis XIV, les immigrés et quelques autres*, Paris, Flammarion, 1999.

Roche, Daniel (dir.), *La Ville promise: Mobilité et accueil à Paris (fin XVII^e-début XIX^e siècle)*, Paris, Fayard, 2000.

Sahlins, Peter, *Unnaturally French: Foreign Citizens in the Old Regime and after*, Ithaca-London, Cornell University Press, 2004.

Sahlins, Peter, « Sur la citoyenneté et le droit d'aubaine à l'époque moderne. Réponse à Simona Cerutti », *Annales. Histoire, Sciences Sociales*, 63^e année, n° 2, 2008, p. 385-398.

阿河雄二郎「オーバン考」『えくす・おりえんて』7号、2002年、1-29頁。

工藤晶人「移民と外国人」、杉本淑彦・竹中幸史編著『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年、211-225頁。

小山啓子「近世フランスの大市都市リヨンとイタリア人」共生倫理研究会編『共生の人文学』昭和堂、2008年、215-238頁。

渡辺和行『エトランジェのフランス史—国民・移民・外国人』山川出版社、2007年。